

ガイドブック「ふるさと滋野」の作成

取組に至る背景・事業の目的

地元の住民でも、文化財等の歴史的史実やいわれを知っている方が少なく、子どもたちが聞いても答えられる人が少ないので、ガイドブックを作成し自分たちが住んでいる場所を再確認し、滋野小学校の授業を通じ正確な知識を習得するとともに地域に対する誇りや地域愛を育てる必要があった。

ただし、歴史書は何冊も出ているが、専門用語でわかりづらく、一度本棚にしまうとあまり活用していなかった。そこで本ガイドブックでは、写真を多く取り入れ、史跡、名所の写真の中にお祭りの風景も取り入れ、地区の将来を担う小学生でも理解できるようにした。

事業内容

- ・6月から、各区ごとの編集委員と、区の役員や歴史に詳しい方々を中心に掲載リストを作成し、それをもとに掲載文の作成を始めた。
- ・老人会を巻き込み、昔からのいわれや、昔の古い写真を提供していただき、今昔の様子を掲載した。
- ・神社や史跡等の写真を載せるだけでなく、そこで行われている行事が大切で、子どもたちが何をしているか、区民がどのように行事に参加しているかを各区にお邪魔し1年をかけて撮影データを収集した。
- ・写真と説明文を配置し、監修委員等により何回も見直しをかけ、平成25年2月末に完成した。
- ・地区の全戸ならびに市役所も含め各団体に配布した。
- ・小学校にも130部配布し、歴史の時間に学習していただくようお願いし、了解いただいた。



【発刊を伝える新聞記事】

事業効果

いざ自分たちの住んでいる所の、名所・旧跡等の話合いを進めると、いままで何となく見ていた物が物凄く大切な物だと再認識できたことと、それらを後世に残していく必要性を皆が痛感した。

皆が同じ価値観を持ち、地域を大事にし、自分が育ったふるさとを、知る事が地域の発展につながり、小学校の高学年位から教育する事で、より郷土愛が深まり、自分が育ったふるさとを誇りに思い、胸を張って説明できる事が事業の一番の効果だと考える。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

作成にあたっては、「10区の紹介」「珠玉の1枚の写真」「歩きたくなる案内図」「わかりやすさ、読みやすさ」にこだわった。

今後は、年に1~2回「ふるさと滋野」を手に、史跡・旧跡を案内し、歴史探訪を行う。

観光客にも分かるように、道の駅「雷電・くるみの里」や市の観光課に置き、だれでも見られるよう工夫していく。

【選定のポイント】
掲載する史跡・名所を、地域住民からの意見・要望をもとに決定するなど、地域住民との協働でガイドブックが作成できた。今後は、地元小学校の授業での活用を予定するなど、活用の広がりが期待される。

団体名	滋野地区活性化研究委員会(東御市)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0268-62-0403	事業費	1,038,980円
		支援金額	991,000円